

2016 年度（対象年度：2015） 自己点検・評価シート 【大学全体の視点】

基準 5 学生の受け入れ

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評価形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
503	【大学全体の視点】 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	【大学全体の視点】 ⑤収容定員に対する在籍学生数比率は適切ですか。 ○定員に対する在籍学生数の過剰・未充足への対応	B	B

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

503⑤入学定員、収容定員に対する在籍学生数比率は、学部及び研究科の責任のもと管理している。2015 年度における全学部の平均値は、入学定員に対する入学者数の割合は「1.13」、収容定員に対する在籍者数の割合は「1.10」であった。入学者数については、文部科学省による定員管理厳格化に対応するため、2015 年度第 33 回部局長会において入学定員管理の厳格化に伴う入学者確保の対応方策について審議され承認された。

研究科における入学定員に対する入学者数の割合は、修士課程が「0.61」、博士後期課程が「0.40」となっている。また、収容定員に対する在籍学生数の割合は、修士課程が「0.67」、博士後期課程が「0.64」となっており、一部研究科においては、大幅な未充足状態が続いている。

2014 年度から引き続き、各研究科の特色ある取組を共有し、他の研究科の教育改善に結びつけるため、年度当初に研究科全体及び各研究科の教学展開上の重点政策を 2015 年度第 1 回大学院委員会で確認した。また、学内進学者を促進する方策として、全学的な奨学金制度を整備した。

〔改善すべき点の確認〕前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

（自ら「改善すべき点」と掲げた事項）

学内進学者、学外からの進学者、社会人、留学生それぞれの進学動機や学修目標の分析を行い、研究科ごとの志願動向分析を行う。また、それぞれの研究科が安定的に学生を確保し、競合他大学に対して競争力を維持し続けるために、志願者動向の状況把握と改善する取り組みを日常的に整備する取り組みを検討する。研究科修了生の進路支援について、キャリアセンターとの連携強化を図る。

（評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項）

研究科における入学定員に対する入学者数の割合は、一部研究科においては、大幅な未充足状態が続いている。
【努力課題】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

入学者数については、文部科学省による定員管理厳格化に対応するため、2015年度第33回部局長会において入学定員管理の厳格化に伴う入学者確保の対応方策について審議され承認された。また、大学院への学内進学者を促進するための奨学金制度を整備した。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

昨年度に引き続き学内進学者、学外からの進学者、社会人、留学生それぞれの進学動機や学修目標の分析を行い、研究科毎の志願動向分析を行う。また、志願者動向の状況把握と改善する取り組みを日常的に整備する取り組みを検討する。研究科修士生の進路支援について、キャリアセンターとの連携強化を図る。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
503	2015（H27）学校法人実態調査【様式1-（1）】
503	入学定員管理の厳格化に伴う入学者確保の対応方策について
503	2015年度における教学展開上の重点政策について
503	2015年度における教学展開上の重点政策について（重点政策項目一覧）
503	大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）大学 HP (http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/expense/index.php)（電子データなし）

II. 評価結果

総評
継続的に努力課題となっている研究科における入学定員に対する入学者数の割合は、依然として一部研究科においては、大幅な未充足状態が続いている。 奨学金制度を整備し、学部と大学院を接続させ、学部生の入学を促進するため入学生受け入れ方策の一つとしているが、本制度の効果検証も継続して行っていただきたい。 定員管理において「学部及び研究科の責任のもと管理している。」とあるが、教授会・研究科委員会と、学部・研究科の執行部会議との関係についても言及していただきたい。特に執行部会議については、「大学基準協会からの助言について」も参照いただきたい。
伸長すべき点（長所） 《箇条書き》
改善すべき点 《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・継続的に努力課題となっている研究科における入学定員に対する入学者数の割合は、依然として一部研究科においては、大幅な未充足状態が続いている。【努力課題】 ・定員管理において「学部及び研究科の責任のもと管理している。」とあるが、教授会・研究科委員会と、学部・研究科の執行部会議との関係についても言及していただきたい。特に執行部会議については、「大学基準協会からの助言について」も参照いただきたい。【留意点】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

Ⅲ. 大学基準協会からの助言について

助言内容

【分科会報告書 課題】

- 1) 「執行部会議」については、一部学部では学内規定において、その存在意義、権限、構成メンバー等を定めた何らの規定もなく実際上の運営が許されている点に問題がある。

Ⅳ. 全学的課題事項

2015 年度

■評価項目 No.503

研究科における入学定員に対する入学者数の割合は、一部研究科においては、大幅な未充足状態が続いている。【努力課題】